

第1回名張市都市マスタープラン改定検討委員会の要旨

日時：平成21年7月10日（金）15:00～17:20

場所：名張市総合福祉センターふれあい202会議室

- 【委員】 既に市役所や銀行などが名張地区から希中央・鴻之台地区に移り、名張地区の中心市街地としての機能が低下し、希中央・鴻之台地区に移ってきている。
一方、既に計画決定している都市計画道路等の都市施設はそのまま、私権を制限し続けている。そうした都市施設の見直しなどをどの様に計画に盛り込んでいくのか。

確かに市役所が名張地区から移転したことは影響が大きい。

しかしながら、そのことは既成事実として認識する他なく、複眼的に都市を見たときに、名張地区を希中央・鴻之台地区と違った観点で市街地と位置づけることは可能。

例えば、希中央・鴻之台地区の国道沿道にはどこにでもあるチェーン店が立地しており、住民には便利かもしれないが、名張らしさは感じられない。名張地区では、名張らしさを感じられる、例えば大人がデートできるような地域として捉えれば別の価値が見出せるのではないか。【委員長】

- 【委員】 マスタープランでは、きれいな言葉が並べられているが、では具体的にどの様に実現されていくのかが全く分からない。

平成16年に策定した総合計画で用途指定などについて目標数値を掲げているが、実際には全く進んでいない。

何故、これまで実施できなかったかといった理由を明らかにした上で、これから何をどのような形で実施していくかを検討すべきだと思う。

過去のことの責任を追及しているのではなく、思い切った施策を打ち出すことが必要ではないか。

また、マスタープランは名張で住んでいる市民やあるいは名張で生まれ育って、その後名張を離れた人が誇りを持って名張がふるさとだと感じて貰える様な計画でなければならないと思う。

方針の段階では具体的な事項について表現することは難しいが、今回の改定において何をやろうとしているのか、市の考え方の柱はあると思うので、次回以降、口頭説明でも良いのでポイントを示していただければ伝えることができると思う。

また、一番大切なことは、そうした思いをいかに実現に向けた取組みに展開できるか否かであり、事務素案の第2部実現に向けての部分が重要。【委員長】

- 【委員】 名張は、元々の人口が3万人に対して新住民が5万人という構成で、これら新住民が名張をふるさとと感じていないのではないか。

いずれにしても、今回のマスタープランはフレーズが多いが、心を打たない。

- 【委員】 市民が感動する機会が無くなってきている。歴史関係でも、資料で見れば理解できても、一般の方々には分かりにくい。お金もあまりかけず、小さいことでよいので誰もが感動できる風景づくりなど、見て理解できることをやっていく必要がある。